

4 とび・土工工事業における高齢者活用に向けた基本的な考え方

とび・土工工事業で働く職人の、できるだけ長く働きたいという希望に応えるために、また、業界としての社会的責任を果たすためにも、まずは、65歳までの雇用機会の確保を確実なものとしていくことが求められます。あわせて、できるだけ多くの職人が希望する年齢まで働くことができるような環境整備を図っていくことも重要です。

そのためには、加齢に伴い体力面や平衡感覚、敏捷性等が低下するといわれる高齢者であっても、その長い職業経験の中で培った能力を十分に発揮できるように、日々の健康管理や健康面での配慮、また、安全対策についてこれからも積極的に進めていくことが重要です。

あわせて、仕事の内容や勤務日数・勤務時間、また賃金についても、高齢者本人の能力や体力、就労に関する希望に応じて見直すことも考えられます。

また、当業界においては、今後、減少が見込まれる若年者の採用と定着、育成が非常に重要な課題であることから、高齢者の保有する高い技術・技能を若年者に伝承するとともに、とび職としての心構えや仕事のやりがいについても若年者に伝えていくことが求められます。こうした取り組みを通じて、仕事に誇りを持ち、会社や仲間を信頼し、連帯感のある職場をつくっていくのです。こうした職場づくりを行うことは、元請からの評価の向上につながり、結果として業界の社会的地位の向上にもつながるものと思われれます。

一方で、高齢者雇用問題に関する対策は、高齢になってからでは遅いという側面もあります。あらかじめ60歳以降も働くことのできる能力を身に付けておくことや健康管理に関する取り組みなど、壮年期からやっておかなければならないことも多くあります。こうしたことに会社としても支援をし、60歳以上も元気で、長年職人として働いてきた中で培った能力を十分に発揮して働いてもらうことが重要です。

以上、まずは個別企業においてできることについて積極的に取り組んでいくことが望まれます。

ただし、残念ながら、この業界には個別企業だけをもってしては解決できない課題もあります。

とりわけ高齢者雇用の大きな問題として挙げられている、元請の年齢による高所作業の制限や入場制限については、建設業界総体として改善すべき問題として、当業界としても声を上げていくことが求められます。

とび・土工工事業における高齢者活用に向けた基本的な考え方

1. 仕事の内容や勤務日数・勤務時間、また賃金について、高齢者本人の能力や体力、就労に関する希望に応じて見直す
2. 日々の健康管理や健康面での配慮、また、安全対策についてこれからも積極的に進めていく
3. 高齢者の保有する高い技術・技能を若年者に伝承するとともに、とび職としての心構えや仕事のやりがいについても若年者に伝えていく
4. あらかじめ60歳以降も働くことのできる能力を身に付けておくことや健康管理に関する取り組みなど、壮年期からやっておかなければならないことがあることを理解させる
5. 年齢による高所作業の制限や入場制限について、建設業界総体として改善に向けて取り組む

